

小美玉市の歴史を知ろう 47

祭囃子がきこえる — 堅倉ばやし —

お祭りといえば勇壮なお神輿、獅子や山車などの賑やかな情景が浮かぶかと思えます。それらと共にお祭りに欠かせないのが「祭囃子」です。

祭囃子は、山車や屋台などが巡行する時に演奏される音楽です。囃子によって舞や歌が高潮し、祭りの雰囲気盛り立てる働きがあります。

県内各地には、こうした囃子が現在まで数多く伝えられています。その中の一つ、「堅倉ばやし」をご紹介します。

堅倉ばやしの歴史

堅倉ばやしは、金刀比羅神社祭礼に奉納される神事芸能です。毎年8月10日前の土・日曜日に開催されています。金刀比羅神社の建立は寛喜二年(1230年)、讃州(香川県)の金刀比羅宮から奥州(東北地方)方面へ分神体を移す途中、長旅の疲れでご神体が常陸国片倉宿(堅倉)に留まりました。その際、貴布禰神社の境内に祭祀されたのが金刀比羅神社の起源と伝えられています。



写真：金刀比羅神社(貴布禰神社に合祀)

堅倉ばやしの正確な発祥年代は分かっていませんが、近隣の石岡囃子などを元に、現在の姿に伝わってきたのではないかと考えられます。

堅倉ばやしの特徴

堅倉ばやしは、長太鼓・小太鼓・摺鉦・笛を同時に演奏し、その調子に合わせて四種類の踊りがあります。

獅子舞：一年間の無病息災、家内安全を祈願した清めの舞

神馬(きつね)：作物を荒らすけものを追い払い、豊作を呼ぶ踊り

四丁目(おかめ)：天の岩戸の前で天鈿女命が舞ったといわれるお

かめの舞

民場(ひよっこ)：農作に励み、一年間の豊作を祝い、感謝を捧げる踊り

他に、山車の出発と帰着後のお囃子終了後に奏でる「さんぎり」というお囃子がありますが、踊りはありません。

踊りには、農作に関連したものが多く分かります。手作業で農作が営まれた時代は、天候や害獣(虫)などによって収穫量が左右され、いかに豊作を迎えられるかが課題でした。お囃子には五穀豊穡の願いが込められており、それは人々の「生きる願い」にもつながっています。



写真：堅倉ばやし(平成30年撮影)

堅倉ばやしの未来へ

堅倉ばやし継承のため、昭和43年に「堅倉ばやし保存会」が結成され、現在もその保存と後継者育成に努めています。堅倉ばやしは昭和57年、美野里町指定文化財(無形民俗文化財)に指定されました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年は各地でお祭りが中止となりました。お神輿や山車が練り歩き、祭囃子がきこえる。来年

は、そんな光景が見られることを祈念します。

「小美玉市のお祭りと年中行事 2020」

玉里史料館参考展にて、金刀比羅神社祭礼と堅倉ばやしを展示紹介しています。

期間 11月29日(日)まで

場所 玉里史料館(生涯学習センターコスモス内)

休館日 月曜日、11月3日、24日

【語句解説】

摺鉦：祭囃子などで用いられる打楽器。真鍮製の小型の鉦で、左手で持ち、右手のばちで打つように打つ。

天の岩戸：日本神話に登場する、太陽神である天照大御神が隠れたとされる洞窟。

天鈿女命：岩戸に隠れてしまった天照大御神を戻すために踊り舞った女神。現在では芸能の神様として祀られている。